

6. 36年目の試み

1980年にC Y Rがカンボジア難民キャンプで発足してから36年間、カンボジアの子どもたちの幸せを願い、農村での保育施設の開設や公立幼稚園への協力を通して、幼児教育の拡充と向上に取り組んできました。開設から25年を迎えたカンダール州のバンキアン保育所とプレイタトウ保育所からは、これまで多くの子どもたちが巣立っていきましたが、小学校や中学校、高校へと進学できても大学や専門学校には行けず、夢をあきらめてしまう子どもたちが大勢います。農村の子どもにも進学の夢をかなえ、将来、C Y Rとともに子どもたちを支えてほしいとの願いから、2010年、幼稚園教諭要請のための奨学金を創設しました。これは、バンキアン・プレイタトウ両保育所の卒園時から希望者を募り、C Y Rが幼稚園教諭養成学校への進学費用を支援するという奨学金です。これまでに4名の卒園時が全課程を修了、幼稚園教諭としての資格を取得しました。

2015年8月に卒業した奨学生（ビアスナ・ニャトさん）は、2016年4月、C Y Rプノンペン事務所で保育アシスタントとして働き始めました。現地事務所に日本人の保育専門家を置かず、現地の人々の手に保育事業を移管してから、カンボジア人アドバイザー（ヨス・オー・アルンさん）が保育教材の開発、保育所や幼稚園の評価や管理を一手に引き受け、子どもたちのことを一番に考えた保育を進めてきました。その培ってきた知識やノウハウを、保育アシスタントをはじめ若手職員へ引き継いでいく予定です。C Y Rは、これまでの取り組みやノウハウを、将来を担う若い力に託し、発足以来の夢である「カンボジアの人々による活動」へ新たな一歩を踏み出しています。

*奨学生のインタビュー

「保育所に通ってよかったことは、食べて、勉強して、遊べる安全な場所を得られたこと。先生になることを目標に勉強を続けました。高校卒業後、教員採用試験を受けましたが不合格で、夢をあきらめかけた時に保育所の奨学金制度を知り、すぐに応募しました。養成学校では朝早くから夕方まで授業があり、課題も多く忙しい2年間でした。課程終了後に半年間、研修生としてバンキアン保育所に勤務した時には、先生になれたという実感が湧き、とてもうれしかったです。私がC Y R職員として働く姿が、農村の子どもたちのお手本となるように一生懸命働きたいです。」
(特定非営利活動法人幼い難民を考える会)

